



TITLE:

經濟的行為と道德的行為との關係 (十)

AUTHOR(S):

田島, 錦治

CITATION:

田島, 錦治. 經濟的行為と道德的行為との關係(十). 經濟論叢 1919, 8(4): 493-504

ISSUE DATE:

1919-04

URL:

<https://doi.org/10.14989/127513>

RIGHT:

經濟的行爲と道德的行爲との關係 (十)

田 島 錦 治

第十五節 資本の經濟的及び道德的性質

第三 資本

余は既に生産の三要素の中の自然及び勞力に就て其經濟的及び道德的性質を説明したり今や進みて第三要素と稱せらるゝ所の資本に就て同様なる説明を試みむと欲す

夫れ資本とは何ぞや曰く社會經濟上の觀點に従はゞ資本とは既往の生産の結果たる財貨にして生産の目的に使用せらるゝものを謂ひ約言すれば生産物にして生産方便たる財貨を謂ふ此定義に従へば(1)生産方便たる財貨にして生産物に非ざるものは資本に非す例へば土地その物の如きは是なり(2)生産物たる財貨にして生産方便たらざるものは資本に非す例へば吾人の衣食住其他一切の享受方便の如きは是なり

抑も生産の最終の目的は享受方便たる財貨を作り出すに在り而して此生産手續は時としては至て簡單なるものあり例へば余か飲料水を得むとするに方り源泉に就き手に掬して之を飲むか如き又余か野生の果實を摘みて直ちに之を食ふか如きは即ち是にして之を直接なる生産手續と稱す斯かる場合に於ては生産は自然と勞力との二要素のみを以て行はれ且至て卑近粗野なる自然と至て

單簡拙劣なる勞力とか互に相結合するに外ならず蓋し未開野蠻の時代に就て見るも斯の如き直接なる生産手續は寧ろ例外に屬し大抵紆曲なる生産手續行はる紆曲なる生産手續とは人か始めて或種類の生産に着手する時より最後の消費の時に至る迄に於て幾回かの中間的生産物ある場合を謂ひ例へは魚を捕へんと欲して先づ釣針釣竿又は網罟を作るか如き飲料水を得んと欲して先づ井を堀り釣瓶を掛け又は溪泉を導く爲に樋管を作り且之を架くるか如きは是なり凡そ斯の如き紆曲なる生産手續に於ける中間的生産物の總體は即ち資本なりとす蓋し人智の開發文明の進歩は益々生産手續をして紆曲ならしめ之か中間的生産物即ち資本をして其實並に其量に於て益々増加せしむるものなり而して資本の増加は自然及び勞力の生産力を増加し隱微なる自然の勢力及び資料を發き巧妙なる勞力の堪能を誘起し社會全般に向ての享受方便をして益々精良豊富ならしめ人類の幸福を増進するは毫も疑を容れざるなり試みに見よ現時吾人の日常燈用に供する電力は第十九世紀の中期以前吾人の祖先の未だ知らざりし隱微なる自然力に非ずや此電力利用に關する學問技術は亦均しく彼等の未だ起すを得ざりし巧妙なる勞力堪能に非ずや然り而して此等の自然力と勞力堪能とを補助して其結合を完からしめ其効果を擧げしむるに與かりて力有りしものは即ち一方に於ては學問の研究又は技術の試験に使用せられたる學校研究所書籍器械原料等にして他方に於ては電力の生産及び供給に必要な工場機械原料其他一切の建設物等なりとす而して此等の物は紆曲生産手續に於ける中間的生産物にして即ち資本なり換言すれば生産物にして生産方便なる財貨なりとす

以上叙述したる資本の定義及び其説明に依れば資本の任務は明白なり資本は兩原始的生産要素即ち自然と勞力との中間に介在して其生産の機能を完からしむるの所の方便なり自然の物質、勢力及び地位等は多くは資本の投下を待ちて始めて經濟上の効果を現はし來る、例へば風力水力電力蒸氣力の風車水車船舶發電機蒸氣機關に於ける如き魚鳥森林鐵物の網罟、斧斤、探鑛冶金の裝置機械工場に於ける如き海灣の港市に於ける如きは是なり勞力も亦資本の補助を受くるに非ずんば到底其機能を發揮する能はず如何に強き腕力も如何なる健脚も牛馬に若かず汽力電力には其及はざる遠し又如何に熟練なる彫刻師も如何に勤勉なる記者も刀筆の補助を假らされは其技藝を發揚するに由なからむ其他分業の精粗及び企業の完否は資本の大小及び之か利用の巧拙に因ること多しとす

余輩は資本を以て紆曲生産手續に於ける中間的生産物なりと謂へり、然り、資本を生産することとは紆曲なれども一旦資本にして成立するときは生産は迅速となり多種多量となり品質は良好となり價格は低廉となるへし是を資本の生産力と稱す然れども茲に注意すへきは資本の生産力は勞力を補助するに於て始めて現はれ來ること是なり且資本は元來勞力を自然に加へて生産せられたるものなるか故に勞力は父たり主たり資本は子たり従たり

以上は主として資本の經濟的性質に就て説明したれども同時に其道德的性質を暗示したり夫れ資本は吾人をして禽獸又は野蠻人の如き謂ゆる口より手の生活を免かれしむるものなり古語に言はすや衣食足りて禮節を知ると然り資本を多く有する國民は之を少く有する國民よりは衣食の給

養豊かなり隨て其道德的程度も亦高きを得るなり蓋し富める國民は貧しき國民よりは概して勤勉にして節約に現在の小利を捨て、未來の大利を謀り自己の小善を推し擴めて社會の大善と爲さむと勉むるものなり而してこの事たる大なる資本を有するの結果にして更に一層大なる資本を生ずるの原因となるものなり請ふ余か前に掲げたる資本の兩つの定義は今茲に述ふる如き經濟的兼道德的性質を明白に言ひ表はせるを注意せよ即ち其第一定義に於ては『資本とは既往の生産の結果たる財貨にして生産の目的に使用せらるゝものを謂ふ』とあり此定義の前半は吾人又は祖先か資本を作り出したる過去の勤勉及び節約を意味し其後半は吾人又は子孫か現在并に未來に於て更に新なる資本を作り出し及び其他の財貨即ち享受財を作り出す所の勤勉及び節約を意味するものとす故に吾人は資本を所有するに於て祖先の恩惠を感じ資本を使用するに於て此恩惠を後昆に及ぼさんと勉むるものなり

資本の第二の定義に於ては『紆曲なる生産手續に於ける中間的生産物の總體なり』とあり是れ固より第一定義と異詞同義なり而して此定義に謂ゆる紆曲なる生産は即ち勤勉と節約とを意味し現在の小利を捨て、將來の大利を謀ることを意味す而して謂ゆる中間的生産物の存在は過去の勤勉と節約との結果に外ならずして將來の大利を得るの方便に供せらるべきものとす

前掲二つの定義は資本（即ち社會經濟上の觀點に従ふ資本）の經濟的兼道德的性質を言ひ表はすと同時に其成立及び増加の問題に答ふるものなり元來此問題に關して二説あり第一説は資本は節約 (Ersparung) に由りて成立すと主張し (例へば Adam Smith, J. S. Mill, Roscher, Francis

Walker 等) 第二説は生産に由ると論し (例へば Lauderdale, Rodbertus, Lassalle, Marx, Gide 等) 第三説は節約と生産との兩作用に由ると説きたり (例へば Böhm-Bawerk, R. T. Ely 等) 第一説は固より正鵠を得たるものに非ず蓋し唯節約することは消極的行爲に過ぎずして之に因りて積極的結果を生ずる能はず且吾人の節約する所の物は生産せられたるものに外ならず然らば則ち第二説は第一説よりは一層正當なりと謂ふへし但し其缺點と思はるゝは一般財貨の成立と其一部たる資本の成立とを混同するに在り如何なる財貨も生産に因りて成立するは勿論なり而して資本は財貨なるか故に生産に因りて成立すと主張する説は決して誤謬には非ざるへけれども此説を以てしては資本に非ざる財貨即ち享受財の成立と資本の成立とを區別する所毫もこれ無きを如何せん譬へば第一説は『溜池は水の堰止に因りて生ず』といふか如く第二説は『溜池は降雨に因りて生ず』といふに等し降雨は溜池をも生ずへく又流川をも生ずへし故に『溜池は降雨と水の堰止とに因りて生ず』といふの一層正確なるに若かず第三説は即ち是なり蓋し人類の始めに溯りて考ふ時は人類は未だ資本を有せず唯自然の恩恵物を採取し占有して以て生命を維持し謂ゆる直接なる生産を爲したるに過ぎざりしか漸くにして直接生産に因りて得たる享受財の一部を節約し之を貯蓄するを知るに至りて勞力に餘裕を生し之を全然其日暮しの目的に供するに及はざることゝなり斯くして生産力は節約せられ之に由りて第一の資本は生産せられ次に此第一の資本を自然及び勞力に參加せしむるに由りて従前よりは一層多量なる享受財を生産するを得たり是に於て又其一部を節約し益々勞力に餘裕を生し之に由りて更に一層有力なる第二の資本は生産せられ次に又此第二の資本

論 説

經濟的行爲と道德的行爲との關係(十)

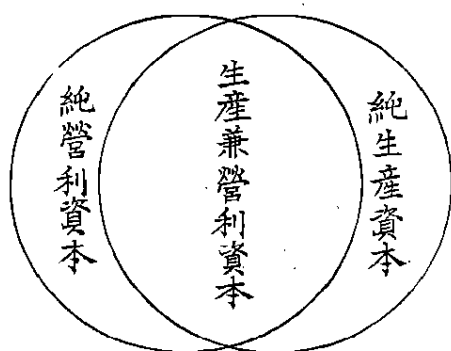
本を生産に參加せしむるに由りて更に一層多量なる享受財及び一層有力なる第三の資本は節約せられ生産せらる斯の如く節約と生産とか年々世々反覆せられて現時の社會に實際目撃する所の應大なる資本は成立したるなり

是に由て之を觀れば現時吾人の所有する所の資本は恰も吾人の身體の如く遠き古の祖先より繼承し來りたるものにして決して偶發したるものに非ず孔子曰く『身體髮膚之を父母に受く敢て毀傷せざるは孝の始なり身を立て道を行ひ名を後世に揚げて以て父母を顯はすは孝の終なり』と(孝經)余は資本に就ても亦爾いはんと欲す曰く凡そ一切の器具機械、原料、交通機關、生産用建築物、土地若くは自然に加へたる永久的改良等は皆之を祖先に承く之を善く保存するは孝の始なり之を善く利用して以て祖先の恩澤を著大にし之を後世に傳へて益々其利福を享くるを得しむるは孝の終りなりと

然らば資本を善く保存し及び善く利用するの道は如何請ふ試みに之を論せむ

以上余は社會經濟的觀點に従ふ所の資本に就て其經濟的及び道德的性質を説明したり然れども世俗に謂ゆる資本は之と異にして多くは私經濟的觀點に従ふ所の者なり此觀點に従へば『資本とは私有財産の一部を成し其營利方便たるへき生産物を謂ふ』余は便宜上社會經濟的觀點に従ふ資本を生産資本と稱し私經濟的觀點に従ふ資本を營利資本と呼ふへし此兩區別は余が第十一節に掲げたる生産と營利との區別の如く交叉的に非ざることを注意すへし即ち(1)生産資本にして同時に營利資本たるものあり之を生産兼營利資本と稱す(2)營利資本たらざる生産資本あり

之を純生産資本と稱す(3)生産資本たらざる營利資本あり之を純營利資本と稱す之を圖解すれば左の如し



生産資本

營利資本

此圖に於て右の圓を生産資本とし之と交叉せる左の圓を營利資本とす然るときは兩圓の互に一致せる中央の雙面凸形は生産兼營利資本を示し右方の新月形は純生産資本を示し左方の新月形は純營利資本を示すべきなり

抑も生産資本と營利資本との別は前者は其公有たるを私有たるとを問はず生産の目的に使用せられ後者は私有物にして營利の目的に供せらるゝに在り公有資本は總て純生産資本なりとす何となれば國家及び地方團體の公有せる財産は總て公益の目的に供せらるべきもの有り得へからされはなり但し公有財産に二種あり一は直接に公益の目的に供せらる資本にして例へは官廳の建物其敷地道路橋梁運河港灣公園等はなり之を國又は地方團體の公産 (domaine public) と稱す二は財政上の收入を得る目的を以て國家及び地方團體が管理する資本にして例へは公有の森林鑛山鐵道市街鐵道瓦斯電氣の供給に關する一切の營造物等はなり之を國又は地方團體の私産 (domaine privé) と稱す

と稱す國又は地方團體の公産か純生産資本たるは固より疑を容れされども其私産は殆んど私人の營利資本と異ならず然れども精密に論ずるときは國又は地方團體か其私産より得る所の收入は畢竟公益の目的に供せらるゝものにして私人か其營利資本より得る所の收入を以て自己の私益に供するとは同じからず然らば則ち公有財産は其公産たると私産たるとを問はず總て純生産資本なりと謂ふべきなり

次に私有資本に就て見るに其大部分は生産兼營利資本なり例へば工場機械原料私設鐵道店舖生産用及び運搬用車輛船舶家畜等凡そ私有に屬するものは皆是なり此外に私有資本にして純生産資本の部に入るべきものあり教育慈善等凡そ公益的事業を目的とする私法人例へば赤十字社武德會濟生會私立大學等の財産は是なり

由是觀之一社會に於ける生産資本は左の三より成るを知る

- (1) 私有財産にして生産兼營利資本たるもの
- (2) 私有財産にして純生産資本たるもの
- (3) 公有財産にして純生産資本たるもの

前掲(1)及び(2)の外の私有財産にして純營利資本となるものあり例へば住宅家具遊船の如きは之を自己の用に供すれば享受財なれども之を他人に賃貸すれば純營利資本となるべし何となれば賃借人は之を享受財として使用するか故に社會經濟上何等の生産行爲あらずと雖賃貸者の私經濟上に於て賃貸料なる收入を生ずるを以てなり又他の例を擧ぐれば金貸業者の貸金は利子を生むを以て

總て營利資本なれども或は生産資本を兼ね或は純營利資本となる即ち借手か之を生産的消費に供すれば生産資本となれども之を衣食住の費途に供すれば生産資本とならずして唯金貸業者に向ての純營利資本となるのみ

以上余は社會經濟的觀點に従ふ資本(即ち生産資本)と私經濟的觀點に従ふ資本(即ち營利資本)との區別及び關係を明かにしたるか此事は其前に提出し置たる問題即ち『如何にして資本を善く保存し及び善く利用するか』を答ふるに必須缺く可からざるものなりとす夫れ社會は個人の集團なるか故に社會の利善を進めむと欲せは先づ個人をして各其の利善を謀らしめざる可からず固より夫の極端なる自由放任の政策は不可なりと雖國家が餘り多く干渉し監督して人民の個性を沒却せしめ其行動の自由を牽制するは一層不可なりとす蓋し個人が各自其の精神及び身體を鍛鍊修養するに由りて始めて強健なる國民を成すを得るか如く個人が各其の業務に勉め其資産を積むに由りて始めて富裕なる國民を成すを得るなり然り而して個人をして各其の業務を勉め其資産を積ましむるの道は生産的營利より有效なるは無し夫の不生産的營利は往々道德上及び法律上排斥禁遏すべきものあり而して不營利的生産は主として國家及び地方團體の任すべき所に係り一般公衆をして繼續的普遍的に之を行はしむ可からざるは少しく常識ある者の俱に知る所なり(第十一節參照)夫れ斯の如く生産的營利は各個人の勤勉節約を衝動鼓舞するものなるに於ては之を行ふに必要とする所の資本即ち生産兼營利資本を各個人に私有せしむるの必要なるは論を俟たず凡そ人の情として他人の身體よりは自身を愛護する如く他人の財産よりは自己の財産を愛護す故に資本の

私有は之を善く保存し及び善く利用するの道なるは毫も疑を容れざるなり

生産兼營利資本の私有が既に必要なるに於ては之か生産物の私有の正當なるは勿論なり而して生産物は蓋し左の數項を成すへし

- (1) 次期の生産兼營利資本となるべきもの
- (2) 享受財として生産者の必要便宜及び奢侈等の諸種の消費に充てらるべきもの
- (3) 租税公債又は寄附等の形式を以て國、地方團體、公益的私法人等の不營利的生産に向ての資本即ち純生産資本に繰入らるべきもの
- (4) 他人に貸貸せらるゝ享受財にして貸主に向ての純營利資本となるべきもの
- (1) に就ては其經濟的及び道德的性質の説明は前述せる所略ぼ之を盡せりと信す
- (2) に就ては第六節乃至第十節に於て『適宜なる消費』『消費の經濟的法則』及び『奢侈(上中下)』なる標題の下に詳説したるを以て今復贅せず
- (3) 及び(4) に就ては以下少しく論する所あらむ夫れ現時の文明諸國家の國有財産及び地方團體の公有財産は年々其質及び量に於て増加しつゝあり是れ文明の進歩に伴ひ社會欲は益々發達し從て之を満足せしむべき國家及び地方團體の職務が益々擴張したるに由る此等の公有資本の中に就ては私産。即ち財政上の收入を生ずべきものは國家又は地方團體が始より所有したるものあり又は人民より買収したるものあり而して之か買収に要する資源は多くは之を公債に待たざるへからずと雖之か元利の償還及び私産の保存及び改良はそれ自身の純益を以て之に充つるを得べきなり然れ

とも一層重要な公産[○]は始めより國有又は公有たりし土地河川の水路港灣の外は之か設定に向て租税又は公債に依るを要し而して總ての公産の保存及び改良の費用は常に租税又は公債に依らざるへからず然り而して租税及び公債の根源は人民の生産物に在るか故に公有資本の成立及び増加は亦人民各個の勤勉節約の結果なるは明白なり其他公益的私法人特に財團の資本は個人の任意的醸出に係り其個人の勤勉節約の結果なることは同一なり由是觀之一社會に存在する純生産資本即ち不營利生産に向ての資本の大部分は其社會を組織する各個人の勤勉節約に由りて設定保存改良増加せられ而かも其根源は各個人の生産兼營利資本の利用の結果たる生産物に在るや明なり

夫れ斯の如く個人の勤勉節約の結果か彼等の生産兼營利資本を成立増加せしめ生産兼營利資本の増加の結果たる生産物の増加は更に純生産資本を成立増加せしめ個人の營利は進みて社會の公益となりたり實に此經濟的行爲は即ち己れを推して人に及ぼすの仁道に合し小我を進めて大我と爲すの道德的行爲と融合一致するものと謂ふべきなり

然りと雖總ての資本は決して常に善用せらるゝものに非ず公有資本か往々暴君汚吏腐敗せる議員に由りて惡用せらるゝことあり無名の師を起し不急の土木を興し其他無責任不誠實に由りて官物を損失し公費を濫出するの弊は世々國々に其跡を絶たず之を小にしては某々都市の市政關係者の瀆職問題の如き之を大にしては今次の獨帝の野心か惹起したる世界大戰亂の如き即ち其適例なりとす私人の經營する教育救恤衛生美術等に關する事業の中にも亦往々口を公益に借りて私腹を肥やすの似而非慈善者無からず

生産兼營利資本は不正なる競争に由り又は私的獨占に由り甚しく惡用せらるゝ事は吾人の絶えず目撃する所にして其社會の公益を害して以て彼等の私利を長するの手段となるに於ては生産資本の名ありて實は惡性の純營利資本に化するものと謂ふべきなり其他惡性の純營利資本に數ふべきは賭場遊廓等に屬する資本なりとす

然れども純營利資本の中には必ずしも非難すへからざるものあり賃貸する住宅遊園遊船家具等は是なり元來財産は其所有者の意思に由りて或は生産資本として用ゐられ或は享受財として用ゐらるゝ部分甚だ多し享受財とても或は自家用に供せられ或は賃貸せらるゝことあるか故に一社會に存在する財産又は資本を確定的に類別するは至難の事なり特に純營利資本を然りとす例へは賃貸せる住宅は純營利資本なれども若し借家人か之を工場又は營業所に兼用すれば生産兼營利資本となるへし金貸業者の貸金は之を借る人の用途か衣食住の費用に供すると、生産用に供するに従ひて或は金貸業者に向ての純營利資本となり或は生産兼營利資本となる是故に現時の法制に於て既に生産兼營利資本の私有を是認する以上は純營利資本の私有をも其惡性の者に非ざる限りは亦之を是認せざるへからず(未完)

正誤、前回の論文標題に第十二節とあるは第十四節の誤